



千葉氏の供養塔が並ぶ寺

来迎寺は、時宗を信仰した千葉貞胤が、建治2年(1276)に一遍を開祖として現在の中央区道場北に建立し、来光寺と称したと伝わります。時宗は都市部を布教の拠点としており、当時の千葉のにぎわいがうかがわれます。以降、千葉家は時宗を信仰し、来光寺は関東の重要な時宗寺院でした。江戸時代に浄土宗に改宗し、来迎寺となりました。昭和

20年(1945)に戦災にあい、現在地へ移転しました。

境内には貞胤の子の氏胤、その子の満胤、氏胤の夫人と伝えられる円勝禅尼などの五輪塔(千葉市指定文化財)が並んでいます。応永32年(1425)を中心にいずれも15世紀の年号が確認でき、このころに建てられたと考えられます。

氏胤は足利尊氏に仕え、下総国(現在の千葉県北部)に加えて伊賀国(現在の三重県)、上総国(現在の千葉県中部)の守護になりました。

氏胤の子には、嫡男満胤のほか、原胤高、西誉聖聡などがいます。胤高は、戦国時代に小弓城(中央区生実町)などを拠点に、千葉氏に匹敵する勢力となる原氏の祖です。また、西誉は、徳川将軍家の菩提寺となる増上寺(東京都港区)を開きました。

五輪塔 刻銘	
平氏胤語阿弥陀仏	応永三三二月十五
円勝禅尼	永享八年丙辰二月十五日
平満胤阿弥陀仏	応永三三九月十三
吉原見阿	応永三三二月十五
光阿弥	応永三三二月十五
母妙仏	応永三三二月十五日
為□□□定門逆修也	宝徳四年八月五日



本尊 木造阿弥陀如来立像
千葉市指定文化財
創建時の作と考えられます。